

神の平安
嵐の中で支える礎
イザヤ書 26 : 1-3

ロジャ・ウィリアム師

26:1 その日、ユダの国でこの歌が歌われる。私たちには強い町がある。神はその城壁と塁で私たちを救ってくださる。26:2 城門をあけて、誠実を守る正しい民を入らせよ。26:3 志の堅固な者を、あなたは全き平安のうちに守られます。その人があなたに信頼しているからです。

はじめに

私たち現代人は、非常にあわただしく世知辛い時代に生きています。世間には不穏な空気が漂っています。

世界、国内、私たちの住む町、そして個人的なこと、どれに目を向けてもその傾向があります。

まだ一か月半ほど前ですが、ゆく年に別れを告げ、来る年を迎えるにあたり、私たちは新しい一年への希望や祈りを抱きました。

その少し前には、イザヤ書 9 章 6 節が「平和の君」と呼ぶイエス・キリストのご降誕を祝いました。

イエスはヨハネ 14 : 27 で、おっしゃいました。「わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。わたしがあなたがたに与えるのは、世が与えるのとは違います。あなたがたは心を騒がしてはなりません。恐れてはなりません。」

ヨハネ 16 : 33 ではこう語られました。「わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあって平安を持つためです。あなたがたは、世にあっては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです。」

詩篇 34 : 14 には、「悪を離れ、善を行え。平和を求め、それを追い求めよ。」とあります。

今日の聖書箇所イザヤ書 26 : 3 は、次のように記しています。「志の堅固な者を、あなたは全き平安のうちに守られます。その人があなたに信頼しているからです。」

イエスは平和の君であります。そして、イエスの平安を求める人には皆、ご自身の平安を約束なさいました。

主イエス・キリストが再臨されるまで、この世が平和になることは決してありません。しかし、私たちはすべての理解を超えた平安を体験することができます。

使徒パウロは、ピリピ 4 : 7 で平安について次のように語りました。「そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。」

パウロはここで「心を…守ってくれます」と語っていますが、これは、神が私たちの心の周りに守りの壁を築いてくださるという意味です。

キリストは私たちの平安です。人生の嵐が吹き荒れるとき、キリストこそ、私たちを安定させてくれる礎です。主は、問題や試練がない人生を約束なさいませんでした。また、人生に嵐がやってこないとも約束なさいませんでした。苦しみや悲しみのない人生も約束なさいませんでした。けれども、人のすべての考えにまさる平安を与えると約束してくださいました。

パウロは、エペソ 2 : 14 で平安についてエペソの信徒たちに「キリストこそ私たちの平和で」と語りました。

イザヤ書 26 : 3 「志の堅固な者を、あなたは全き平安のうちに守られます。」

I. 「全き平安」とは何か。（イザヤ書 26 : 3）

それは、内側が混乱していないという意味です。また、パニックに陥っていないということです。不安や心配、焦燥感から解放された状態です。完全に安らかで心が平穏だということです。このような平安は神のみが与えることのできる超自然的なものです。

鎮痛剤や鎮静剤でも、お酒でもありません。こういったものを使えば、痛みや不安を数時間感じずにいられるかもしれませんが、けれども、ずっと平穏にはなれません。それは全き平安ではないのです。

全き平安は、神が神であられる、このお方は変わることがないという確信とともに得られます。全き平安は、あらゆる不幸な状況の中で喜びを与えてくれます。喜びは、うれしいという感情よりも偉大なものです。うれしいかどうかは状況に左右されます。けれども、周囲を取り巻く状況は、主にある喜びを奪い去ることはできません。

全き平安は、忍耐とともに得られます。神の平安を持つ人とは、神を信頼する忍耐強い人です。

II. どうすれば神の平安を得られるのか。

それにはいくつかの必須条件があります。神の平安は無作為に与えられるものではありません。

神の平安にはふたつの側面があり、そのどちらもとても重要です。

1. 神との平安
2. 神の平安

まず、神との平安から考えていきましょう。

人は、神との平安を実現するまでは神の平安を得ることは決してできません。

これはとても大切なことです。

神の平安を知りたいと言いながら、神に逆らって罪深い生き方を続ける人がいます。

神の平安と神に不従順な心とは共存できません。

ソロモンは箴言 15 : 29 で「【主】は悪者から遠ざかり、」と語りました。

イザヤ書 48 : 22 には、「『悪者どもには平安がない』と【主】は仰せられる。」とあります。

ここでふたつの真理が見えてきます。

1. 人が神との平安を実現するには、イエス・キリストとの正しい関係をまず築く必要がある。

失われた人、つまりノンクリスチャンは、神の平安を持つことはできません。
神に従わないクリスチャンも神の平安を持つことはできません。

神の平安が人に与えられる道はたったひとつです。その道とは、イエス・キリストとの正しい関係です。

私たちがイエス・キリストにすべてを明け渡すとき、平安がやってきます。

2. 人が神との平安を実現するには、心と思いをイエスにとどめなければならない。

これは、私たちの考え方や愛情をイエスに向け、イエスに心をささげることです。
心や思いがこの世のものでいっばいの状態のまま、神の平安を体験することはできません。

人生のどこに焦点を合わせて生きるかが大切です。
人生の嵐が吹き荒れるとき、試練や誘惑に見舞われるとき、失望して傷ついたとき、嵐に焦点を合わせていては平安を見出すことはできません。主に目をしっかり向けなければなりません。

このことについて、シモン・ペテロの話がわかりやすく教えてくれます。

マタイ 14 : 22-23 には、嵐の中、シモン・ペテロが湖の上を歩く話が記されています。30 節にはこうあります。「ところが、風を見て、こわくなり、沈みかけたので叫び出し、『主よ。助けてください』と言った。」

自分の抱えている問題ばかりに目を向けていては、神の平安を得ることはできません。
イエスに目を向けましょう。そして、イエスからその目を離さないでいましょう。

ピリピ 2 : 5 でパウロは語ります。「あなたがたの間では、そのような心構えでいなさい。それはキリスト・イエスのうちにも見られるものです。」

キリストはどのような心構えでおられたのでしょうか。それは、常に御父を思う心です。

III. 私たちも、神の平安を得ることができる。

イエスを信頼しましょう。そうすれば、神の平安を体験することができます。

私たちは人生のすべてにおいて、神を信頼することができます。

まず、イエスに目を向けましょう。

次に、神のみことばに焦点を絞りましょう。

詩篇 119 : 165 は語ります。「あなたのみおしえを愛する者には豊かな平和があり、つまずきがありません。」

神のみことばで心も思いも満たしましょう。そうすれば、神の平安を体験することができます。